教育心理学　　太田 絵梨子

授業概要

人間の学習と発達の過程について理解を深め、教育心理学の理論と教育場面での実践を結びつけて考えることを目的とする。授業では、学習の原理に関する諸理論、個別や集団場面での指導法、子どもの発達の様相などを中心に講義する。また、受講生同士での話し合いの場を設け、教育心理学を生かした実践の具体例を考えたり、実践場面における諸問題について教育心理学的な視点から分析することを促す。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：教育心理学とはどのような学問かについて学ぶ。
第 2 回	学習のメカニズム：条件づけの理論を学び、教育場面での応用可能性について考える。
第 3 回	動機づけの基礎：「やる気」は心理学的にどのように捉えることができるかについて学ぶ。
第 4 回	動機づけの応用：「やる気」を引き出し、持続させる方法について考える。
第 5 回	記憶のメカニズム：人が物事をどのように覚えたり思い出したりしているかについて学ぶ。
第 6 回	知識獲得と理解：人が知識を獲得するということの意味と、理解の働きについて学ぶ。
第 7 回	学習方略と学習観：学習の効果を左右する学び方や信念について学ぶ。
第 8 回	メタ認知：人が自分の学習を振り返り、コントロールする働きについて学ぶ。
第 9 回	協同学習：他者と協同で学ぶことの効果を学び、教育場面での応用可能性について考える。
第 10 回	学習の指導と支援(1)：個別学習相談の場面における指導や支援のあり方について学ぶ。
第 11 回	学習の指導と支援(2)：集団授業の場面における指導や支援のあり方について学ぶ。
第 12 回	学習の評価：評価の分類や方法、評価が学習者に与える影響について学ぶ。
第 13 回	発達の理論(1)：認知と言語がどのように発達するかについて学ぶ。
第 14 回	発達の理論(2)：社会性がどのように発達するかについて学ぶ。
第 15 回	障害の理解：障害について学び、障害のある子どもへの教育や支援について考える。
第 16 回	筆記試験

到達目標

- 教育心理学の基礎的な知識や概念について自分の言葉で説明できる。
- 教育心理学の知見をどのように実践に生かせるのかについて、具体的に意見を述べることができる。
- 実践場面で生じる諸問題について、教育心理学的な視点から分析することができる。
- 他者との協同の中で、疑問を解消したり考えを深めたりすることができる。

履修上の注意

授業中は、講師からの説明だけでなく、受講者同士での話し合いの場を設ける。
他の受講生とも協力しながら、主体的に授業に参加することを求める。

予習・復習

予習：指定した教材に目を通し、疑問点やもっとよく知りたい点を考えておくこと。
復習：授業で学習した内容について、分かった点やまだよく分からない点をまとめておくこと。
（予習や復習を通じて出てきた疑問点については、授業内でフィードバックを行う）

評価方法

学期末試験７０%、授業内レポート２０%、受講態度１０%

テキスト

教科書は特に指定せず、毎回の授業時に適宜教材を配布する。
参考書：
『絶対役立つ教育心理学：実践の理論、理論を実践』藤田哲也編　ミネルヴァ書房
『教育心理学の実践ベース・アプローチ：実践しつつ研究を創出する』市川伸一編　東京大学出版会